

## N17c 新しい Herbig Be 星 MisV1147 の発見とその特異な変光

植村 誠、加藤 太一、石岡 涼子(京大理)、吉田 誠一、門田 健一、大倉信雄(MISAO プロジェクト)、Arne Henden(US Naval Observatory)、Ondrej Pejcha(MEDUZA group)、衣笠 健三(ぐんま天文台)、藤井 貢(Fujii-Bisei Observatory)

我々は MISAO プロジェクトが発見した新変光星 MisV1147 について報告する。この天体の光度曲線は明るく変動幅の小さい「静穏期」と、2 等にも達する深い減光を頻繁に繰り返す「活動期」に分類される。活動期の減光には赤化が伴う。天体の位置は既存の  $H\alpha$  輝線天体と一致し、我々の分光観測から MisV1147 が輝線天体であることが確認された。 $H\alpha$  輝線は幅が狭く対称で、これらの特徴は明るい時も減光中も変化しない。赤外線域の色は T Tau 型星か Herbig Ae/Be 型星に似ている。さらに強い NaD 吸収線の存在と、天体の方向に Cep OB1 があることも考慮して、我々は MisV1147 がスペクトル型 B2 の Herbig Be 星であると結論する。可視域から赤外域までの SED は Herbig Ae/Be 星の典型的なもので、このことは我々の結論を支持する。

光度曲線の全体的な特徴は Algol 的な減光が起きる UX Ori 型に似ているが、一方でこの型はこれまでスペクトル型 B8 より晩期でしか発見されていない。MisV1147 の最も驚くべき特徴は、スペクトル型 B2 の早期型星であるにも関わらず、これまで知られている Herbig Ae/Be 型星と比べて、非常に大きな振幅の減光が観測されたことである。Herbig Ae/Be 型星では、スペクトル型と変光振幅に相関があることが知られていたが、MisV1147 はこの関係を破っている。このことは、B 型の前主系列天体においても、星周辺のダストによる中心星の掩蔽によって大きな減光が起こるために十分なダストが存在することを示唆する。